

【まとめ】 文化ボランティアコーディネーター 柴田 英杞氏

〈課題 1〉 どの段階の市民参加を目指したいか？

今日参加の皆さんの肩書や活動の内容等を拝見して、いろいろな取り組みを実践しておられる方、県や市町村の行政の方、中間支援の組織で活躍されている方、そして全国から集まっていた方など多方面の方々がお集まりです。そこで皆さんの日頃の活動に有意義なものとなるよう、少しハードルの高いワークショップを行ってみました。

それは市民社会論に通じるワークショップで、文化部門だけでなく環境や国際協力の分野にも使えるものです。皆さんがどのような地域社会を目指したいのか、自分の力を活かせる社会なのか、市民参画社会なのかを考えてみたいと思いました。

その結果、驚くべき結果が出ております。

10班それぞれの討論の中身を拝見しますと、

参加形式が『市民によるコントロール』で、行政からの独立を選んだ班が2つあります。順位では①「行政独立市民活動」と、②「行政から市民団体への権限委譲」を選んだ班ですが、これはNPOとか社団法人が該当します。

行政から独立しているため慢性的な財政難に陥りますので、常に資金の獲得活動が求められる厳しい状況にあります。出来ることなら文化ボランティアコーディネーターは有給で、皆さんを円満にまとめ得る強力なリーダー的存在が必要です。

参加形式が『実質的な参加』の③「パートナーシップ」を選ばれた班が6つあり、次の④「積極的意見聴取」を選ばれた班が2つあります。この段階は一般的な選択です。

しかし現実には、この『実質的な参加』の段階が一番難しく、ボランティアの受け入れ側と文化ボランティア側双方にコーディネーター人材の配置が必要です。どちらか片方だけの配置ではうまく行きませんので、ご注意いただきたいと思います。

私が感心したのは、その後の『形式的な参加』に属する消極的な意見聴取が選ばれなかったことです。これまで、どのワークショップにおいても行政との消極的な関係を表す⑥「表面的意見聴取」、⑦「一方的な情報提供」が選ばれていましたので、本日のワークショップは驚くべき結果だと思います。

皆さんが選択された市民参加の段階は、「私たちが地域社会を開くのだ！」という強い意識の現れであると解釈され、これは非常に素晴らしいことであると評価したいと思います。

※ どの段階の市民参加を目指したいか？詳細は

53頁の「市民参加のはしご（段階）とKPT分析で話し合われた事柄」を参照

《まとめ》

今日一日のまとめに入ります。

普通、一般には「ボランティア」は解るが、「文化ボランティアのコーディネーションとは何だろう！」と、思ってしまいますね。

参加された皆さまの中にも「知らず知らずのうちに、コーディネーターをやっていたのだ」と、今日、お気づきになった方もいらっしゃると思いますし、実際にコーディネーターとして活動されている方も何人もいらっしゃると思います。

これからの時代は、コーディネーター人材が求められる時代となって来ましたが、その人材の育成には、このようなフォーラムに参加するとか、無意識のうちにも一種のトレーニングを重ねて行くことが必要です。

2009年の「文化ボランティアコーディネーターの養成に関する調査研究」から、それまでの潜在的なボランティアコーディネーターが顕在化することとなりました。

コーディネーター人材の育成が急務であると言われてきましたが、無給ではできない難しさもあります。

三木さんも言われたように、11月14日の文化審議会が開催されますが、その中で「新しい公共」の議論や、企業に働きかけるなど有給の処置等について話し合われると思います。

河合隼雄さんが「文化ボランティア」を提唱されて、15年となります。

コーディネーターの必要性が叫ばれて、7年です。ボランティアコーディネーターに関する認識も少しずつ進んできているように思います。

今日の「とことん討論会」の感想ですが、皆さま、可成りいいところまで議論が深まったと思います。素晴らしいワークショップとなりました。

ボランティアコーディネーターとして活躍するには、やはりネットワークをいかに構築するかが必要で、キーポイントの一つであると思います。

今日参加された方々は、是非名刺交換などをしていただき、これからいろいろな事業に関わる際にも限られた知識や情報だけでなく、ネットワークを活かした交流の中から新しい発想や地域のオリジナルな企画を、「文化ボランティアの力」で展開してくださることをこのワークショップを通じて、改めてお願いいたします。

最後に「フルーツバスケット」と書いていますが、今日の参加者全員が、会場内を自由に回遊することで他班のグループ討議結果を学び、名刺交換等の交流の時間を設けます。

終わった方は、流れ解散とします。

今日は長丁場のお付き合い、誠に有難うございました。

※ 各班における KPT 分析で話し合われた事項は、

「とことん討論会」ワールドカフェ（KPT 分析）な内容とまとめ[54頁～63頁]参照